

六本木クロッシング2010展：芸術は可能か？ 明日に挑む日本のアート

2010年3月20日〔土〕－7月4日〔日〕 森美術館（六本木ヒルズ森タワー 53階）

クロッシング・プライズ 受賞者決定！

森美術館は、6月13日（日）に「六本木クロッシング 2010 展：芸術は可能か？」に関連して「クロッシング・プライズ」の結果発表及び授賞式を開催し、鑑賞者の皆様の投票による「オーディエンス賞」を照屋勇賢氏、森美術館館長と理事会メンバーが選考する「MAM賞」を青山悟氏、多様なジャンルで活躍する特別審査員が選ぶ「特別賞」を Chim↑Pom、加藤翼氏、宇治野宗輝氏に授与しました。

尚、今回の特別審査員には、俳優の伊勢谷友介氏、建築家の隈研吾氏、キャスターの八木亜希子氏の3氏を迎えました。



6月13日の授賞式に出席した受賞アーティストと審査員
撮影：御厨慎一郎

<オーディエンス賞> ※鑑賞者の投票により決定。

受賞者：照屋勇賢

<MAM賞>

受賞者：青山悟

審査員：飯田高誉（京都造形芸術大学客員教授／森美術館理事）、市原研太郎（美術評論家／森美術館理事）、山下裕二（明治学院大学教授／森美術館理事）、南條史生（森美術館館長）

<特別賞>

受賞者：Chim↑Pom、加藤翼、宇治野宗輝

特別審査員：伊勢谷友介（俳優）、隈研吾（建築家）、八木亜希子（キャスター）

「六本木クロッシング 2010 展：芸術は可能か？」

日本のアートシーンを見渡すべく、多様なジャンルのアーティストやクリエイターを紹介する展覧会として、2004年にスタートした「六本木クロッシング」は、毎回、異なる複数のキュレーター陣により選出された、その時代を代表する刺激的な作品が「交差する」定点観測的な展覧会。3回目を迎える本展には、長いキャリアを持つアーティストから若手注目株まで20組が参加。「芸術は可能か？」という古くて新しい問いを出発点に、写真、彫刻、インスタレーション、映像、グラフィティ・アート、パフォーマンスなど、エネルギーに溢れ、力強く明日に挑む日本のアートを紹介している。

PRESS RELEASE プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：渡邊、瀧、岡崎 Tel:03-6406-6111 Fax:03-6406-9351 E-mail:pr@mori.art.museum
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER



オーディエンス賞 受賞者：照屋勇賢



照屋勇賢の展示作品は、紙袋やトイレットペーパーの芯といった日用品を使って精巧に制作されたものである。また、それらは環境問題や「沖縄」といった社会の事象について私たちに一考を促すとともに、紙にまだ宿る木の生命力、という独自の想像力もその背後にはある。このように、技巧力、社会性、想像力という3つを兼ね備えた作品の強さがオーディエンスに伝わり、受賞につながったのではないと思われる。来場者が熱心に照屋の作品を写真撮影する姿が頻繁に見られたことも、その人気の高さを表していた。

—近藤健一（森美術館アソシエイト・キュレーター）

〈告知—森〉2005年 紙袋、糊 9.3×15×27.5cm 所蔵：オオタファインアーツ、東京 撮影：木奥恵三



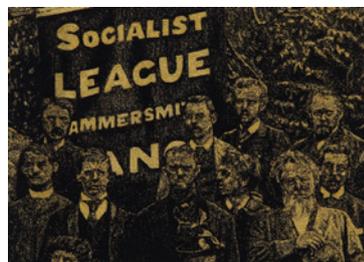
受賞者コメント

マックや免税店からの袋、ビザ箱、トイレットペーパー、ひっくり返った日の丸まで、どれも沖縄から生まれてきた作品です。そして、どれも東京にもあります。等身大にみえていたら、きっと沖縄の自然も、東京の道ばたからみえてくるんだという、オーディエンスからのお返事をこの賞でもらえました。

照屋勇賢（Teruya Yuken） | 1973年沖縄県生まれ。ニューヨーク・スクール・オブ・ビジュアルアーツ修士課程修了。「横浜トリエンナーレ 2005」（横浜、2005年）、「沖縄・プリズム 1872-2008」（東京国立近代美術館、2008年）などに参加。



MAM 賞 受賞者：青山 悟



青山悟は、長年、刺繍を表現方法に用いて制作してきたアーティストである。彼は、きわめて集中力を要し、長い時間のかかるこの技法を、あたかも油彩のように柔軟に使いこなし、細密であると同時に伸びやかな表現を可能にしている。今回のシリーズは、社会的な事件を描いた新聞や雑誌の記事写真をその主題に取り上げ、明快なテーマ性を打ち出している。そして、手作業についてのウィリアム・モリスの言葉を引用し、また社会主義のマニフェストを引用することによって、手仕事をういた労働の意味を、自己言及的に再定義しようとしている。青山がこのようなスタンスで、商業的、資本主義的なシステムに対し、批判的なコメントを発信し、内省的であると同時に概念的なアプローチを可能にしたことが、今回、審査員の高い評価となった。—南條史生（森美術館館長）

〈Glitter Pieces #1〉2008年 ポリエステルにメタリック糸と黒糸で刺繍 17.4×23.2cm
個人蔵 Photo: Miyajima Kei Courtesy: Mizuma Art Gallery, Tokyo



受賞者コメント

「芸術は可能か？」という深刻な問題を掲げる展覧会での受賞に、大きな意義を感じております。展覧会前も会期中もずっと自問していました。これからもずっと問い続けていくと思います。展示に関わってくださった皆さん、本当にどうもありがとうございました！

青山 悟（Aoyama Satoru） | 1973年東京都生まれ。シカゴ美術館付属美術大学大学院ファイバー&マテリアル・スタジオズ科修了。「赤坂アートフラワー 08」（東京、2008年）や「TWIST and SHOUT: Contemporary Art from Japan」（バンコク芸術文化センター、2009年）などに参加。

PRESS RELEASE プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：渡邊、瀧、岡崎 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー



特別賞 伊勢谷友介 選
受賞者：Chim ↑ Pom



地球上における様々な変化は、“表現者”にとってもテーマとなってきました。現代においても同様で、現実には時に残酷でありながら、私達の目を覚ましてくれる。Chim ↑ Pomさんのパフォーマンスは、その“傷ついた部分”を鋭く刺しながらも、見る側に、いとも簡単に現実には飛び込ませてくれる“ポップ”さがカッコイイ。しかし、同時にそのポップさは彼らの作品を、ますます鋭くして私達にみせてくれていると思います。これからの未来の僕らに、何を見せてくれるのか楽しみです!!!

—伊勢谷友介（俳優）

《SHOW CAKE, xxxx!!》2010年 インスタレーション サイズ可変
「六本木クロッシング 2010 展：芸術は可能か？」展示風景 撮影：木奥恵三 Courtesy: Mujin-to Production, Tokyo



受賞者コメント

伊勢谷友介君！誇れる出来事が私達に起こりました。この現代で最高に COOL で HOT な ARTIST の彼が、Chim ↑ Pom を選んで下さった事は本当に名誉で嬉しいです。ありがとう！お互いの更なる大成功と幸せを祝して、乾杯!!XXX

Chim ↑ Pom | エリイ(1983年生)、卯城竜太(1977年生)、林靖高(1978年生)、岡田将孝(1980年生)、水野俊紀(1979年生)、稲岡求(1982年生)によって、2005年、東京で結成した6人組のアート集団。「ウィンター・ガーデン：日本現代美術におけるマイクロポップ的想像力の展開」(原美術館、東京、2009年)などに参加。



特別賞 隈研吾 選
受賞者：加藤翼



建築という存在自体が、今どのような危機的状況にあるかを、この作品はものの見事に顕在化している。建設することに意味があるわけではなく、ひきたおすこと、こわすこと自体に意味があるということ、この作品はものの見事に顕在化した。建築をつくるということの、肉体的な快楽から我々が排除された今、それを補うようにして建築をひきたおし、またよみがえらせるということの身体的快楽に我々が芽生えつつあることもこの作品は教えてくれる。

—隈 研吾（建築家）

《H.H.H.H. (ホーム・ホテルズ・ハルニャン・ハウス)》2008年 ラワンベニヤ、OSB、赤松垂木、SPF、虎ロープ
895x526x493cm パフォーマンス風景：上野恩賜公園、東京



受賞者コメント

この度、特別賞を受賞させて頂き大変光栄です。これまで共に作品制作をしてきた仲間、家族、友人やその他大勢の人たち、ありがとう!!! これからも一つ一つの発表の場と友愛の精神、未だ見ぬ出会いを大切に「グッ」とくる作品をつくってまいります。

加藤 翼(Kato Tsubasa) | 1984年埼玉県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了。「GEISAI#12」(東京ビックサイト、2009年)、「第13回岡本太郎現代芸術賞」(川崎市岡本太郎美術館、神奈川、2010年)などに参加。

PRESS RELEASE
プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：渡邊、瀧、岡崎 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER



特別賞 八木亜希子 選
受賞者：宇治野宗輝



宇治野さんの作品は、まずとにかく楽しかった。思わず足を止めて、しばし物たちの演奏に聴き入らずにはいられませんでした。この作品は、大量生産され短いサイクルで使い捨てられる物もまた誰かの生み出した物であり芸術作品に成りうるという事、その土地に売られている中古品を組み合わせる事で同じように見える物からも地域性を出しうるという事を、気づかせてくれました。芸術＝独自の視点、独自の表現を生み出す事は、いつでもどこでも何においても可能なのだという事を楽しく魅せつけていただきました。元気になりました。

—八木亜希子(キャスター)

《THE BALLAD OF EXTENDED BACKYARD》部分 2010年 日産セドリックバン、木製家具、家電機器、ミクスト・メディア
サイズ可変 「六本木クロッシング 2010 展：芸術は可能か？」展示風景 撮影：木奥恵三



撮影：御厨慎一郎

受賞者コメント

受賞の連絡をいただき、思いがけなく、とても嬉しく思います。ご協力いただいた多くの皆様大変感謝しております。今回の展示は、私にとって日本の美術館で初めての展示で、かつ、今は大きく世界の価値観が変わるタイミングでもあり、これまで行ってきた物質を通した 20 世紀後半の近代化の調査を、現在に生きる作品として発表すべく、緊張して望みました。引き続き未来に向けて、気持ちを引き締めています。

宇治野宗輝 (UJINO) | 1964 年東京都生まれ。東京藝術大学美術学部工芸科染織専攻卒業。「第 15 回シドニー・ビエンナーレ」(シドニー、2006 年)、「Ujino and The Rotators」(ハイワード・プロジェクト・スペース、ロンドン、2009 年)などに参加。

【展覧会基本情報】

主催：森美術館

協賛：パナソニック電工株式会社

協力：フォートン株式会社、シャンパーニュ ニコラ・フィアット、ボンベイ・サファイア、公益財団法人東京都歴史文化財団トーキョーワンダーサイト

出品作家：相川 勝、青山 悟、雨宮庸介、宇治野宗輝、加藤 翼、小金沢健人、contact Gonzo、志賀理江子、鈴木ヒラク、高嶺 格、ダムタイプ、Chim ↑ Pom、照屋勇賢、HITOTZUKI (Kami + Sasu)、森村泰昌、八幡亜樹、横溝 静、米田知子、ログズギャラリー、
企画：木ノ下智恵子 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任准教授)、窪田研二 (インディペンデント・キュレーター)、近藤健一 (森美術館アソシエイト・キュレーター)

会期：2010年3月20日(土)ー7月4日(日)

会場：森美術館 〒106-6150 東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 53 階

開館時間：10:00ー22:00 | 火 10:00ー17:00

*いずれも入館は閉館時間の 30 分前まで

*会期中無休

入館料：一般 1,500 円、学生(高校・大学生)1,000 円、子供(4 歳ー中学生)500 円

*表示料金に消費税込

*本展のチケットで「MAMプロジェクト011:ジュール・ド・バランクール」展、展望台 東京シティビューにも入館可(スカイデッキを除く)

*スカイデッキへは別途料金 300 円がかかります(子供は無料)。

お問い合わせ：Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル) WWW.MORI.ART.MUSEUM

PRESS RELEASE プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：渡邊、瀧、岡崎 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER